

那須の歴史
再発見!

那須町と 近現代の人々

vol.25



目黒真理子 (1933-1965)

1月号は、歌人として活躍した目黒真理子を紹介します。目黒真理子は、昭和8年に福島県山都町(現在の喜多方市)に、目黒常八・ハマの子として生れました。

昭和15年に父が常磐炭鉱に関わる軍需関係の仕事に就いたため、真理子も福島県石城郡錦町(現在のいわき市)に移り住むと、昭和21年に植田高等女学校(現在は廃校)に入学しました。このころから叔母の勧めで短歌を作り始めています。その頃の短歌に「遠山の頂白し冷えし朝年老いし祖母の天候うらなふ」があります。昭和27年に卒業すると、萬治炭礦鉱業所で働き始めますが、その後腎結核を患い、療養を行うため昭和30年に宇都宮に移住しました。

体調が落ち着くと真理子は、昭和32年4月から那須八幡温泉「一望閣」に住み込みで働き始めました(2年後に退職)。この年の12月に「傾けて愛さんものもわれになし那須野を今日も光降る雨」を含む10首で「第5回下野短歌新人賞」を真理子は受賞しました。

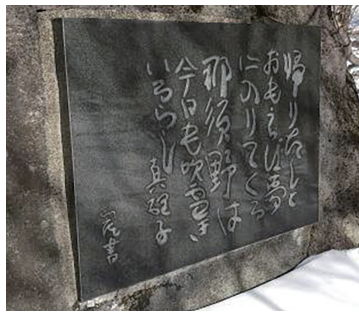
昭和35年からは、県内の歌人が中心となり結社にこだわらない有志が集まった短歌同人雑誌「カルパ」に、真理子は創刊から参加し、ほぼ毎号に10首近くを発表しました。この年は第10回下野短歌賞受賞、角川書店「短歌」への発表など精力的に作品を発表しました。

しかし、昭和37年末から腎臓の状態が悪化し、入院や手術を繰り返すと、昭和40年3月に亡くなりました。

真理子の短歌などについては、没後翌年に遺稿集『青い翳』が刊行され、昭和53年には、やなせたかしの編集で『花の如き天折―目黒真理子遺稿歌集』がまとめられ、平成18年に『目黒真理子の世界』が出版されており、町立図書館などで読むことができます。

県立なす高原自然の家駐車場入口付近には、真理子の歌碑「帰りたいとおもえば夢にいりてくる那須野は今日も吹雪いるらし」が清水比庵の揮毫で建立されています。冬の那須を代表する一首をご覧ください。

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎74・7007



目黒真理子歌碑 (なす高原自然の家前)

かつこう



今年の干支は甲辰(まこと)です。「甲」は成長し勢いを増す様「辰」は活気にあふれる様を表し「甲辰」はこれからの成長を形作っていく年といわれています▼町のたつ年での出来事を振り返ると、12年前の平成24年には、茨城県大洗町と友好都市協定を締結したほか、平成12年には歴史探訪館が、また昭和63年にはスポーツセンターがそれ

ぞれオープンし、昭和51年には伊王野基幹集落センターが完成しました。そして、今年と同じ甲辰で60年前の昭和39年は、東北本線高久信号所が高久駅になった年でした▼たつ年に関する文字に「竜」があります。「竜」を使った植物のひとつが「竜胆(りんとく)」です。リンドウは那須野ヶ原一帯に自生している、藍紫色の花の姿は清楚で気品があり、私たちの心を和ませてください。初秋の澄みきった空に映えるリンドウは、自然に恵まれた

那須町のシンボルとしてふさわしいとして、町制施行25周年の昭和54年に町の鳥「カッコウ」、町の木「ゴヨウマツ」と共に、町の花として制定されました▼今年は町制施行70年を迎えます。「新たな那須町らしさ」をコンセプトとしたロゴマークとキャッチフレーズの作成、雄大な自然や歴史文化など那須町の自慢を記録映像に残す記念事業を行います。豊かな自然と笑顔あふれる那須町が100年、200年と続いていくことを願います。

こんにちは 赤ちゃん



令和5年3月生まれ ゆい
エーリンガー 結
マリー ちゃん

エーリンガー 結 マリーちゃんは…
バナナとさつまいもが大好きです!
Ich mag Süßkartoffeln und Bananen!

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは企画政策課広報広聴係(☎72-6935)まで。

町の世帯と人口

(12月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

・世帯数	10,713 世帯 (-16)	出生	6人 (+ 4)
・人口	24,020 人 (-19)	死亡	31人 (- 8)
	男 11,969 人 (- 2)	転入	74人 (- 2)
	女 12,051 人 (-17)	転出	70人 (-24)
		その他	2人増

広報那須がスマートフォンなどで読むことができます

